

平成16年度 山形市教育研究所 情報教育推進に関する調査研究 授業におけるテレビ会議システムの活用

情報教育推進調査研究 研究員

高橋 章（山形市立桜田小学校教諭）

1 テレビ会議システムの特徴

ネットワーク機能を活用した学校同士の交流学習や専門家による遠隔授業などで、欠かせないのがテレビ会議システムである。互いが離ればなれでいても、顔を見ながら日常のコミュニケーションに近い実感や手応えを得られるのがテレビ会議システムの良さである。



図 TV会議システムログインページ

2 学校間の交流学習

今年度、小学校4年生で交流学習を計画する際に考慮した点は以下の通りである。

- (1) 1年間を通して“ギブ・アンド・テイク”できる相手校（同学年）
- (2) 教育課程の年間計画を見通した全体構想（国語「ローマ字」・社会科「わたしたちの県」の学習など）
- (3) 学習者中心の発信型の交流学習

以上3点から、今年度最上町立東法田小学校の3・4年複式学級と姉妹学級を提携し、交流学習を進めた。

【交流学習の記録】



図 桜田小と東法田小との交流

- ・ローマ字を学習後最初の東法田小へのメール（5月9日）
- ・携帯電話でカウントダウンしたツルレイシの同時種まき（5月11日）
- ・ツルレイシの発芽のお知らせメール（6月15日）
- ・ビデオレターと学校紹介CMビデオの交換（11月～12月）
- ・互いの地域のくらしぶりの違いを情報交換（2月中実施予定）

なお、市外の学校とテレビ会議を行う場合には、相手校のユーザー名とパスワードを事前に発行してもらう手続きが必要である。

3 原爆被爆者等との遠隔授業

また、市内の中学校2校は、長崎原爆死没者追悼平和祈念館とテレビ会議システムでつなぎ、被爆地にいる原爆被害者や祈念館関係者との交流を通じた平和学習を実施した。事前に送った質問の回答や講話、被爆者と対話する活動を通して、「平和」「戦争」について考え、原爆のもたらした影響を正しく知ることができた。

4 テレビ会議システム活用の成果と課題

テレビ会議システムは、電子メールやホームページを通じて交流していた相手の表情をリアルタイムに見ながら、相手意識を持った意見交換やコミュニケーションが可能になり、学習活動にも広がりや深まりが期待できる。しかし、テレビ会議を実施してみて、現時点での課題が明らかになってきた。

例えば、相手校を探す時の難しさや各自治体のセキュリティとイントラネットによる回線接続の困難化・複雑化等があげられる。以上の点を踏まえると、まずは指導者同士の接点が多い、市内の学校同士によるテレビ会議を活用した交流学習、例えば「馬見ヶ崎川サミット」のような意見交換会などが数多く実践され、そのノウハウをいかして多くの学校で授業改善が進められることを期待したい。